

## 熊本市長によるトップセールスと『熊本ふえあ』の開催

シンガポール事務所

熊本市では、去る 1 月下旬に、幸山政史市長以下、市関係者及び民間事業者等がシンガポールを訪れ、アジア進出の拠点として位置付ける当地への地元食品関連企業等の海外進出及び販路拡大を図るためのトップセールスを展開しました。

2011 年 1 月 20 日(木)には、シンガポールの代表的な商業地域にあるマンダリン・オーチャード・ホテルにおいて、在シンガポール日本国大使館等の日系政府機関や流通事業者、旅行代理店、マスコミ等の関係者を招いたレセプションが開催されました。このレセプションでは、みかんやいちごといった熊本市の特産品がふんだんに振る舞われ、訪日旅行先としての魅力も紹介されました。

翌 1 月 21 日(金)には、今回、来星した熊本市とその周辺の食品会社等 11 社が参加する商談会が行われ、約 40 社のシンガポール国内の飲食店や卸売業者等が来場しました。

また、これに合わせ、1 月 21 日(金)から 28 日(金)まで、シンガポールの北東部郊外セラングーンにある大型ショッピングモール「nex」内の日本食レストラン街「SHOKUTSU 10」では、

『熊本ふえあ (KUMAMOTO FAIR @ SHOKUTSU 10)』が開催された。この催しは、同レストラン街を運営する RE&S Enterprises 社と熊本市が共同で行い、名産の「いちご ひのしずく」や「温州みかん 夢の恵」、甘藷(さつまいも)に焦点を当てたものでした。会場では、いちごを使ったシフォンケーキ、みかん、大学芋等の試食販売が行われ、初日のオープニング時には、幸山熊本市長が来場し、店頭で試食サンプルを配る場面も見られました。



レセプションの様子



試食サンプルを配る熊本市長

現在、日本の特産品を紹介する物産展は、シンガポール国内において頻繁に行われているところですが、今回の『熊本ふえあ』の特徴的な点は、会場に郊外のショッピングモールを選んだところにあります。会場となった「nex」は、国内の中央部に位置するシンガポール随一の商業地域であるオーチャードから見て、北東方向の郊外にあるセラングーン地区に、2010 年 11 月にオープンした大型ショッピングモールです。セラングーンは、

シンガポール国内を走る鉄道（MRT: Mass Rapid Transit System）の北東線と環状線が交差し、いわゆる「ミドル・クラス」が多く集まる場所であり、週末ともなると、ショッピングモールは、多くのシンガポール人で混雑する活況を呈しています。

これまでの物産展は、日系デパートの食料品売り場や日系スーパーで行われることが多く、シンガポールに在住する日本人やハイエンドの消費者層を主なターゲットとしてきました。それに対し、今回のフェアは、ハイエンドから一段下がった所得階層のシンガポール人が足を運ぶ場所で行われ、ミドル・クラスまで、そのターゲットを拡げたという意味では、画期的な試みであると言えます。

確かに、日本から輸入する食材は決して廉価ではないが、その味や品質は、高く評価されている。「熊本の味を体験してもらうことで、いわゆる普通のシンガポール人が、熊本を訪れるきっかけにしたい」というねらいが示すように、500万人を超える人口を擁するシンガポールにおいて、食品も旅行も、購買層を在住の日本人や高所得層のシンガポール人以外に拡大することができれば、大きなビジネスチャンスが生まれるものと考えられます。今回の熊本市の取組みは、日本の地方自治体等によるプロモーション戦略の新たな方向性を示唆する試みであったように思われます。

（2011年1月20日 熊本市長主催レセプション参加、

2011年1月21日 『熊本ふえあ』会場視察等）

（片野田所長補佐 鹿児島県派遣）

（小松所長補佐 長野県派遣）

CLAIR